2026年11月

教育改善に向けた学生の意見把握と活用について
―検討と試行的実施の経過報告―

1.取組の背景と目的

学生の意見を教育改善につなげる取組について

本学では、教育の質向上を図るため、授業評価アンケートや学生調査に加え、学部・研究科等の各組織において学生との意見交換や個別のアンケート実施等、多様な方法により学生の意見の把握に努めてきた。

2023年度からは、同志社大学内部質保証推進会議（以下「内部質保証推進会議」という。）において、学修者本位の教育をさらに推進するために、把握した学生の意見を教育の改善や質向上に積極的に活用する方策について検討し、その試行を進めている。

2025年度は、授業評価アンケートや学生調査を通じた意見把握に加え、全学的な取組として教職員と学生が直接対話する機会を設け、収集した意見の分析や課題の整理を行うとともに、学生の意見を教育改善に適切に反映するための手法やプロセスについて検証する試行的取組を実施した。

本学における学生の意見把握と活用に対する考え方

○学生が大学教育における重要なステークホルダーであると同時に、学びの当事者でもあることを踏まえ、学生の意見は、学位の質保証に関する点検・評価の客観性を高め、多面的な検証を行ううえでの重要な情報の一つとして位置付ける。

○学生の意見の把握とその活用は、教育の改善及び質向上のために取り入れるだけでなく、学生自身が大学教育やその質保証に理解を深める一助となることを期待する。

○学生の意見は、主に教学に係る事項についての間接的な意見聴取と直接的な対話を通じて把握する。

○把握した学生の意見は、教職員による点検・評価や各種データとあわせて活用し、これを教育の改善及び質向上に生かす。

2. 2025年度の試行的取組

2025年度の具体的取組概要

本学では、毎年度各組織が個別に実施する学生調査や学生からの意見聴取に加えて、内部質保証推進会議として全学的な観点から学生の意見を多面的に把握し、教育改善に活用するため、「（1）学生調査等による学生の意見の把握」「（2）学生との対話による意見把握」の二つの方法によって学生の意見を把握した。詳細は後述の【参考】具体的取組内容の通り。

成果と改善に向けて

今回の取組を通じて、

・授業評価アンケート集計から見える授業レベルの傾向

・自由記述から見える学生の実感

・学生との対話から見える具体的な改善提案

を相互に確認することができた。また、学生との対話において指摘された内容の多くは、授業評価アンケートや学生調査から把握されていた課題とも共通しており、学生の学習実態や課題認識をより深く理解する契機となった。

また、学生から得られた意見や示唆については、各種調査結果や組織における点検・評価結果とあわせて確認し、内部質保証推進会議において教育改善に向けた課題や改善方策を整理した。その内容は学長への提言に盛り込み、各学部・研究科や機構、センター等その他組織における改善活動や今後のアクションプランの検討につなげていく。

学生の意見を踏まえた教育改善への活用

各種学生調査や学生との対話等を通じて把握した意見については、内部質保証推進会議において確認し、2025年度自己点検・評価結果とあわせて教育改善に向けた課題として整理した。その結果、

・授業評価アンケートや学生調査結果の組織的な活用

・学生の学習時間や学習行動の把握と教育改善への反映

・学習成果の把握・評価と教育課程改善への活用の実質化

・学習支援制度や学習環境に関する情報提供の充実

・学生の意見や外部の視点を活用した点検・評価の客観性向上

などの事項について、改善・充実に向けた提言を取りまとめ、2026年度の自己点検・評価依頼とともに各学部・研究科や関係組織に提示し、教育改善に向けた各取組の検討や取組に活用されるよう、その内容を共有している。

本取組は、学生の意見把握と活用のあり方を検証するための試行的なものであり、今後は得られた成果と課題を踏まえながら、より効果的な手法について検討を進める。

※学生調査の結果については、学習支援・教育開発センターにおいて調査回答者に対しては e-class を通じた個別フィードバックを実施するとともに、学生の意見を踏まえて改善した例を公表している。学生の意見を教育改善に活用するとともに、その結果の還元にも取り組んでいる。

3. 今後について

教育の改善及び質向上に向けた学生の意見把握と活用については、本学の特性や各組織の実情を踏まえながら、その目的や効果を検証しつつ、着実かつ段階的に推進していくことが重要である。2025年度の試行的取組を通じて得られた意見や示唆は、教育の改善及び質向上に向けた課題や提言として整理し、各組織へフィードバックを行った。今後は、試行的取組で得られた知見をもとに、次の点を踏まえつつ、本学の内部質保証活動における学生の意見把握と活用に係る取組を段階的に進めていく。

■試行的取組で把握した学生の意見の活用

2025年度の取組を通じて得られた課題や示唆は、2027年度以降の内部質保証推進に係るロードマップに反映し、教育の改善及び質向上のために活用する。

■対話型により把握した学生の意見の有効性や課題の検証

2025年度に実施した、ラーニング・アシスタント（ラーニング・コモンズにおいて学部学生の授業外学習に関する助言及び相談業務に従事する大学院学生）との対話による意見聴取を踏まえ、直接的な対話により把握した意見の有効性や課題を検証する。

■学生の意見把握と活用の更なる充実

2024年度の自己点検・評価を通じて、各学部・研究科等の各組織においても、学生との意見交換や各種アンケートの活用など、それぞれの目的や実情に応じた学生の意見把握と活用に取り組んでいることを確認した。今後は、学生の意見把握に関する全学的な取組と各組織における取組の双方を通じて、学位の質保証に関する点検・評価の客観性を高め、多面的な検証を行えるよう、学生の意見把握と活用の更なる充実を図っていく。

以 上

【参考】具体的取組内容

(1) 学生調査等による学生の意見の把握

①授業評価アンケート結果の活用

授業レベルの学生の学習状況や意見を把握するため、内部質保証推進会議が全学の集計結果を確認し、授業評価アンケート結果を分析した。分析からは、

・小規模クラスで双方向性が確保され、学習量が担保されている科目群は、満足度が高い水準であること

・授業規模に関係なく授業外学習時間の確保に課題があること

・大規模科目を中心に、双方向性・授業外学習・満足度いずれも低下する傾向がみられ、規模に応じた指導設計の工夫が必要であること

・回答率向上と結果の活用が課題であること

などを確認した。

②学生調査結果の自由記述の活用

学位プログラムレベルもしくは全学レベルでの学生の現状や意見等を把握するため、内部質保証推進会議が学びの実態調査の自由記述を分析し、全学的な観点から課題や長所を整理した。自由記述からは、

・Wi-Fi や学習システムなど学習基盤に関する課題

・自習スペースや学習環境への要望

・授業運営や成績評価に関する改善要望

・学習支援やキャリア支援への期待

などを確認した。一方で、

・学びの内容への満足

・自由な学風への評価

・学習支援や施設環境への肯定的な意見

・建学の精神への共感

なども多く寄せられている。

(2) 学生との対話による意見把握

対話を通じてより具体的な改善提案を把握するため、ラーニング・コモンズで学習相談業務に従事するラーニング・アシスタント（以下「LA」という。）との学生参画企画を実施した。今回は、本学の学部教育を経験し、LAとして多くの学部学生の学習相談に対応している大学院生を対象とした。自身の学習経験に加え、学習支援を通じて把握している多様な学生の学習実態を踏まえた意見が期待できることから、試行的に実施した。

＜学生参画企画の概要＞

参画企画テーマ：学生の視点から考えるディプロマ・ポリシー達成のための主体的な学び

日　　時：2026年3月19日（木） 14:55～16:25

開催場所：今出川校地　良心館ラーニング・コモンズ　プレゼンテーションコート

参加学生：7名の LA

参加教職員：学長室長（副学長）、内部質保証推進会議委員長（学習支援・教育開発センター所長）、学習支援・教育開発センター教員、学長室企画課職員、学習支援・教育開発センター事務室職員の5名

参加学生にはテーマの他、以下の目的について事前に伝え、事前課題への取組を依頼した。

①「主体的な学び」を実現する大学づくりに参加する

・ディプロマ・ポリシー（DP）で求められる資質・能力の育成に向けて、どのような学びが有効かを学生と教職員が共に考える

・学生と協働して『よりよい学び』を創る経験を得るために教員や職員と対話しながら、教育改善のプロセスを体験し、大学運営に参画する「パートナー」として互いに気づきを得る

②学生の声を大学の教育改善につなげる

・授業・カリキュラム・学習環境等における学生の学びの実態を、学生自身の視点から明らかにし、良い点の伸長案、課題の改善案を検討する

・LA のみなさんの経験や気づきを改善に生かす

＜当日の流れ＞

3名と4名の2グループに分かれて作業し、グループごとに①～⑥の観点で改善策を発表した。グループワークの際には、適宜教職員がファシリテーションを行った。

①授業において良かったところ、改善した方が良いところ
（2024年度からの新しい学年暦（13+2）に関する意見も求めた）

②カリキュラム（専門科目、全学共通教養科目）において良かったところ、改善した方が良いところ

③授業評価アンケートや学生調査に関すること（学習成果の把握やフィードバックに関すること）

④主体的、自律的な学びを促す仕組等の提案

⑤学習支援において、学生に対して支援した方が良い、より充実させた方が良いところ

⑥教務に関連するシステム（シラバス、DUET、e-class）に関すること

時　間	内　容
14:55～15:00	■趣旨説明（5分） 学長室長による挨拶。事務局より趣旨の説明。
15:00～15:10	■個人ワーク（10分） ①～⑥の観点で自分の学びの課題や気づきを付箋形式で整理。 赤付箋：改善課題　青付箋：よかった点
15:10～15:50	■グループワーク（40分） 赤・青付箋を分類・統合し、教育の課題と改善策を議論。 緑付箋：赤付箋に対する改善提案、青付箋に対する伸長提案
15:50～16:20	■改善提案発表及び教職員、他グループとの対話セッション、 フィードバック（30分） ①～⑥の観点からグループごとに教育改善のアイデアを提案、発表。

	※発表7分、フィードバック・質疑応答8分×2グループ
16:20～16:25	■まとめ（5分）

＜学生との対話から得られた主な示唆＞

〇学習成果を実感できる授業づくり

授業の目的や学習成果をより明確に伝えることや、フィードバックの充実を求める意見があった。一方で、コメントシートの活用やレポート添削など、学びを振り返る機会については評価する声もあった。

〇主体的な学びを支える環境整備

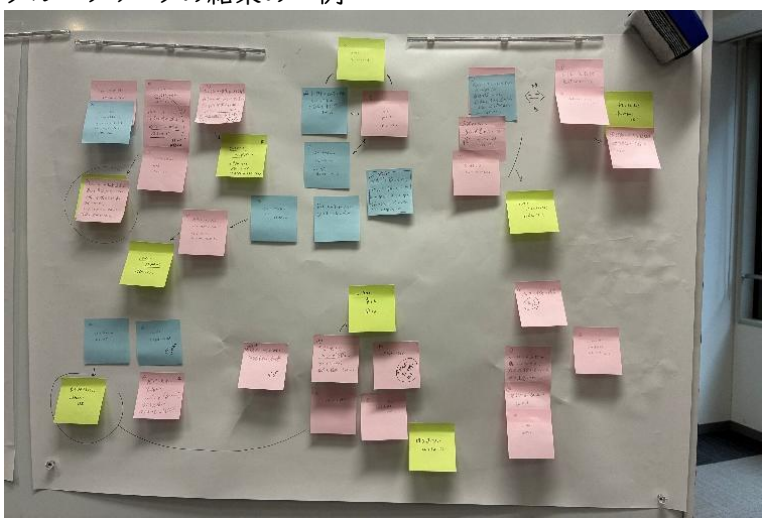
学習支援制度の周知、自習スペースの利用環境、学習相談へのアクセス向上など、学生が主体的に学ぶための環境整備に関する提案が示された。

〇教育改善における情報共有の重要性

授業評価アンケートや学生調査については、制度の認知や結果のフィードバックに関する課題が指摘された。学生と大学が教育改善の成果を共有していく重要性を改めて確認した。

＜当日の様子＞

グループワークの結果の一例



改善提案発表及び教職員、他グループとの対話セッション、フィードバックの様子

